平成２９年　６月定例会

◆１１番（橋岡協美）　議席 11 番、橋岡協美です。徳永由美子議員の代表質問の中で、今の子供たち自身に対する支援や施策の充実こそ、佐倉市で豊かな子供時代を過ごした彼らが佐倉市に住み続ける、そして流出人口を防ぐ理由づけになるのではないかという点について関連質問をさせていただきます。

平成 27 年国勢調査結果では、千葉県内人口増加率の高い市町村ベストテン、これは１位が流山市 6.36％、続きまして印西市、木更津市、四街道市、柏市、白井市、船橋市、習志野市、八千代市、成田市となっています。佐倉市の人口増減の現状について、まずどのようになっているかを伺います。

○議長（櫻井道明）　企画政策部長。

◎企画政策部長（山辺隆行）　橋岡議員のご質問にお答えいたします。

佐倉市の人口は平成 23 年度をピークに減少に転じておりますが、人口減少の主な要因に関しましては、佐倉市人口ビジョンにもございますとおり、社会減というよりは自然減によるところが大きいというふうに認識いたしております。平成 27 年における本市の合計特殊出生率は若干回復傾向を見せておりますが、依然として人口の自然減は続いている状況でございます。

以上でございます。

○議長（櫻井道明）　橋岡協美議員。

◆１１番（橋岡協美）　自然減、亡くなる方のほうが生まれる数よりも多いということだと思います。

それではですね、第４次佐倉市総合計画後期基本計画、そして佐倉市人口ビジョン、佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略を踏まえて、佐倉市の将来人口の目標水準を実現するための取り組みの進捗、どのように進んでいるかを伺います。

○議長（櫻井道明）　企画政策部長。

◎企画政策部長（山辺隆行）　お答えいたします。

先ほど申しましたような人口の推移を踏まえまして、人口減少、少子高齢化への対応について重点施策として策定をいたしました佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、さまざまな施策を展開しておりますが、平成 31 年度の目標年次に向けまして総仕上げの段階を現在迎えておりまして、将来人口の目標水準を達成するために、本市の総力を挙げて挑んでいるところでございます。本市は、これまで特に子育て支援施策の充実に向けまして取り組んでまいりました。また、若い世代の定住を促進するための住宅施策などについても充実させてまいったところでございます。

佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げました４つの基本目標の進捗状況でございますが、重要業績評価指標、いわゆるＫＰＩでございますが、平成 28 年度までの進捗状況を現在調査中でございまして、今後、庁内の部長級職員で構成する行政評価委員会と外部委員による行政評価懇話会において順次評価、分析を予定しております。この中で、目標に対

する進捗度合いにおくれが見られる施策につきましては、その実現の方策を見直しいたしまして、着実に、そしてスピード感を持って各種事業を推進してまいります。

以上でございます。

○議長（櫻井道明）　橋岡議員。

◆１１番（橋岡協美）　進捗については今現在、分析中ということで伺うことができませんでした。また次回、伺いたいと思うのですが。

先ほど申し上げました子育て施策についてベストテンに入っている、特に佐倉市の近隣市について４月１日の状況を調べました。八千代市、四街道市、印西市、成田市の４市ですね。そうしましたところですね、先ほど来からございますが、近居、同居の支援について佐倉市はスタートしておりますが、四街道市が行っていますが他市は実施なし。新婚の引っ越しについては佐倉市が実施スタートしただけで、ほかの４市は実施なし。子育て世代家賃補助については佐倉市がスタートするところでございますが、４市は実施なしということになっています。また、４月１日の保育園の待機児童数は実質ゼロということを達成した佐倉市ではありますが、他市においては100人を超える待機児童数を抱えたところもあります。また、病児・病後児保育については、佐倉市は病後児が３カ所と病児保育が先日スタートしたところです。他市、この人口増に４市と比較しましても、この病児・病後児保育についても先進市と言ってもいいのではないでしょうか。また、産後ケア事業についても実施のない市もございます。

こう考えますとですね、佐倉市はこの人口増を達成している４市と比べて遜色のない、むしろ先進的な取り組みが多くあると考えます。近隣市には、先ほど申し上げた４市の中には児童館が設置していなくて、私が住んでいるユーカリが丘の近くにありますコミュニティセンターに子供を連れて他市からやってくるというケースもあります。子育て世代包括支援センター等先進的な取り組みがあることは大きく評価をしたいところなのですが、平成24年６月議会で、親子近居の助成について質問をいたしました。そのときに、志津地区では親の近くで子育てをしようと考える子世帯が市境をまたいでですね、八千代市に住むという佐倉市としては残念なケースについて例を出しました。一つ一つの子育て施策の充実、少子化担当の設置、シティプロモーションの重点化で人口増につながるのか、つながっているのか、その点について伺います。また、それらの施策が佐倉市で育った子供たちの佐倉市の定住化に結びつけ、出生率を押し上げ、市民が理想とする2.38に近づくことになるかを伺います。

○議長（櫻井道明）　企画政策部長。

◎企画政策部長（山辺隆行）　お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、佐倉市は子育て施策に関しまして、近隣市に比較いたしましても大変充実しているのではないかと思っております。このような佐倉市の魅力ある施策を市外に情報発信していくことが転入増につながるものと考えております。現在、情報発信強化のために、これから５年間を計画期間といたしますシティプロモーション戦略を作成中でご

ざいます。また本年、企画政策部内に少子化対策担当を設置いたしましたので、情報を少子化対策担当に集約いたしまして、シティプロモーション担当と連携しながら、佐倉市の組織を挙げて魅力ある施策を情報発信してまいります。こうした取り組みが転出の抑制や転入の増加、市民が理想とする出生率の達成につながっていくものと考えております。

以上でございます。

○議長（櫻井道明）　橋岡議員。

◆１１番（橋岡協美）　一言にシティプロモーションと言いましてもですね、市外への発信のみならず、市民にもっと佐倉市のよいところを知っていただく、市民一人一人が佐倉市民大使として内外に佐倉を宣伝していただく視点も忘れずに取り組んでいただきたいと考えます。例えば、小学校の自校給食などは、かなり他市からはすばらしい取り組みだとよく言われます。のぞみでも地場野菜を給食に多く入れる取り組みを進めていますが、中でもですね、ちょっと子育てのお母さんたちで子育て施策の違いを感じやすいところは私立幼稚園の助成ですね。就園補助制度なのですけれども、これは佐倉市は県、国の基準に沿って行っているところですが、八千代市の幼稚園に佐倉市の子供が通っている方は割と多いのですね。そういった場合、例えば勝田台の駅近辺であるとか、16 号線をちょっと北上したところにある幼稚園であるとかは、八千代市民、そして佐倉市民、千葉市民がまざっているのです。

そういったときに、肌で何となく佐倉市進んでいるのかしらというふうに、単純に感じてしまう親御さんもいます。そのときにですね、全体的な佐倉市の子育てが進んでいるということをしっかりとお母さんたちに知っていただいていれば、いや、そうかもしれないけれども、佐倉市で私は子育てしたいのだ。なぜならば、こういった子育て支援があるからというように思っていただけるようなシティプロモーション、戦略を立てていただきたいと思います。その中で、平成 31 年度までの後期基本計画を含め、総合戦略の掲げた４つの基本目標の取り組みを進め、行政も市民も潤い、まちづくりをしていくには、市長の施策、戦略にあると考えます。市長の意気込みと考えについて伺います。

○議長（櫻井道明）　市長。

◎市長（蕨和雄）　お答えいたします。

私は、佐倉市版総合戦略の４つの基本目標の達成に向けまして、さまざまな施策に精力的に取り組んでまいりました。特に就任当初から子育て支援策に力を入れてまいりました。全国的な課題でもございます人口減少、少子高齢化という難問に挑む上で、これという決定打があるわけではございませんので、後期基本計画の重点政策にも掲げました施策を同時進行で推進いたしまして、それぞれの施策が相乗効果を生み出すよう、総合的にコーディネートしていかなければならないものと考えております。

今年度、企画政策部内に設置いたしました少子化対策担当を中心といたしまして、市職員全員の力を結集し、この難題に当たってまいります。現在の佐倉市、そして未来の佐倉市が将来に希望の持てる、市民の皆様に佐倉市に住んで本当によかったと心からおっしゃって

いただけるようなまちづくりをするために、リーダーシップを発揮してふるさと佐倉づくりに邁進してまいる所存でございます。

以上でございます。

○議長（櫻井道明）　橋岡議員。

◆１１番（橋岡協美）　少子化担当を設け難題に取り組むという力強い意気込みを伺いましたが、戦略的にやってほしいと思います。今までのやり方に、何が問題があるかということを分析するということが大事ではないでしょうか。

佐倉市の歴史、自然、文化の中に、佐倉市の強みと進むべき道しるべがあると私は考えます。先月、佐倉藩 11 万石のうち４万石があった山形柏倉を訪ねました。それは堀田正亮公が 1746 年に山形から佐倉に 11 万石で入封したときに、米どころ山形の領地４万石、16 カ村を佐倉藩の飛び地として幕府から与えられ、山形に佐倉藩の柏倉陣屋が設けられましたことに始まります。山形は、この柏倉は特に冷害の影響がなく、とても実り多い地でありました。幕末まで代々佐倉城主を務めた堀田のお殿様がですね、教育に力を入れ、山形柏倉にも成徳書院柏倉分校をつくり、藩士の子弟のみならず領民も学ばせた。この領民も学ばせたというところは正式な資料がないという話もありますが、現地の聞き取り調査によりますと領民を学ばせたということが残っています。歌人であり、医師の斎藤茂吉もそうですが、医師初め優秀な人材を多く輩出しています。不思議なことに柏倉というところが、なぜかお医者様がいっぱい明治以降出るのですね。そういった土壌があるのではないでしょうか。藩士の子弟のみならず領民も学ばせたということに、後世に偉人を輩出した背景を考える上では重要になっています。

佐倉市の歴史を振り返っても、堀田正亮公が蘭学に力を入れ、教育に力を入れた結果、数々の優秀な人材が輩出され、近代医学の礎をつくり上げています。佐倉市の 50 年後、100 年後をつくるのは、やはり教育です。柏倉陣屋が設けられてから 270 年の時を経ても、柏倉の方が私どもを大歓迎してくださる。このつながりは、やはりこういったところにあるのではないでしょうか。子育て支援も教育も、結果が見えるまでに時間がかかり、評価を得にくいところがありますが、歴史が証明をしています。一つ一つの施策を佐倉市発展に結びつけるには、俯瞰した広い視点と市長の総合力にあるのではないでしょうか。市長の強いリーダーシップに期待をし、質問を終えます。ありがとうございました。